

〈報道資料〉

2009年7月15日(水)

アイフルホームが 『セシボ・アニバーサリー』と『キッズデザインパーク』で 第3回キッズデザイン賞をダブル受賞

株式会社トステム住宅研究所
アイフルホームカンパニー

トステムやINAXなどの事業会社を擁する株式会社住生活グループ傘下で、住宅FCを全国に展開している株式会社トステム住宅研究所 アイフルホームカンパニー(住所: 東京都江東区亀戸 1-5-7 / 代表取締役社長 兼 アイフルホームカンパニープレジデント: 大竹俊夫)は、この度、経済産業省等により創設された特定非営利活動法人キッズデザイン協議会(本部: 東京都文京区)主催の「第3回キッズデザイン賞」において、**新商品『セシボ・アニバーサリー「絆と家庭を育む暮らし」』(建築・空間デザイン部門)**と**新型展示場『キッズデザインパーク』(コミュニケーションデザイン部門)**の2作品がキッズデザイン賞を受賞致しました。

アイフルホームは、昨年創設した「キッズデザイン研究所」を中心として、「こども目線、こども基準でつくる家は、全ての人に安全で住みやすい家」というキッズデザインの考え方をベースに、次世代を担う子どもの住環境や家庭環境について恒常的に研究開発を進めております。

その取り組みの結果として、昨年受賞の『セシボ「家庭＝家＋庭」絆を育む家』に引き続き、今回(第3回キッズデザイン賞)は、みんなが集まる明るい土間リビングをコンセプトとした『セシボ・アニバーサリー「絆と家庭を育む暮らし」』と新しいタイプのコミュニケーション型住宅展示場『キッズデザインパーク』で、こどもたちの創造性と未来を拓くデザインであることが評価され、キッズデザイン賞を受賞致しました。

アイフルホームはこれからも、こどもに優しい、すべての人に優しい家づくりを行って参ります。

■キッズデザイン賞とは

キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「創造性と未来を拓くデザイン」そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。

社会的、文化的な見地から公正な評価を与えられた受賞作品は、その情報や成果とともに広く社会で共有し、今後の産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としています。

(キッズデザイン協議会ホームページより)



当該受賞作品は、2009年8月6日(木)～9日(日)の4日間、TEPIA(港区北青山)にて開催される「キッズデザイン博2009」にて、展示・公開される予定です。

受賞作品『セシボ・アニバーサリー』概要

『セシボ・アニバーサリー「絆と家庭を育む暮らし」』は、昔の日本人の知恵や暮らし方から土間のある暮らしを再考し、子どものコミュニケーション力や豊かな感性を育むために、土間リビングを家の中心となるコンポーネントととらえた住宅です。

土間は外と内をつなぐ橋のような役割を持っており、元々の日本家屋にあった土間は、そこまでは誰でも自由に入れる場所とされてきました。自由に集うあり方を『セシボ・アニバーサリー』は見つめ直し、家族がイキイキ使える場所として、仲間や近所の人との集いを大切にする場所として、土間リビングのある暮らしをつくりました。また、子どもの安全・安心(キッズセーフティ)を追求し、家庭内事故を予防するための工夫や、さらに子ども達の将来を考えた地球温暖化問題への対策として、温暖化の要因であるCO₂を出来るだけ発生させない“少”エネ技術(太陽光発電や電気自動車充電用タイマー付コンセント等)も組み込んでいます。



《『セシボ・アニバーサリー』外観写真》

特長1. 子どもの感性や好奇心を伸ばす4つのきょういく

①庭は環境学習・感性教育の場「家＋庭」《強育》

庭には、野菜や草花を育て収穫する喜びを知り、庭に集まる鳥や虫などの観察から命の不思議さや意味を知るなどの環境学習や感性を育む場として、モジュールガーデン「フラワーベッド」を提案。

②見守り動線から関わり動線へ《共育》

キッチンには、隣接するタタミ室や土間リビングなどで遊ぶ子どもの様子を見守ることができるだけでなく、子どもの家事参加やリビング学習しやすい動線を確保し、家事のストレスフリーや家族が楽しくコミュニケーションできる場として、パノラマオープンキッチンを提案。

③思い出づくり設計《興育》

インテリアには、子どもの言語力やコミュニケーション力を伸ばし、絵本の読み聞かせ等で家族の絆を育み思い出づくりできる設計として、子どもの手の届く場所に辞書や絵本を置いておく“どこでも辞書”設計や、思い出ミュージアムやグローイングボードを中心とした思い出ステーションを提案。

④集いが生む育み《郷育》

家には、家族だけでなく友人や近隣・地域の方など色々な人が集い、こどもの社会性やコミュニケーション力を育む場として、人々が集う土間リビングやリビングガーデンデッキ、ファミリースペースを提案。



▲フラワーベッド



▲オープンキッチン



▲どこでも辞書・思い出ステーション



▲土間リビング



▲土間リビング

特長2. 家庭内事故を予防するキッズセーフティ

①オール引き戸

玄関ドアや室内ドアには、開閉動作が少なく子どもからお年寄りまで優しい、オール引き戸を採用。ソフトクローズ機能で扉がゆっくり閉まるので、指を挟んだりするケガを軽減。

②角は全て滑らか設計

内部壁の角は、全て滑らかな曲線加工。ぶつかってもケガをしにくい安全設計で視覚的にも安心。

③子どもの転落防止

2階の子ども部屋のサッシには、子どもの転落防止用の開口幅を調節できる小開口アームを設置。また、バルコニーの手すりは、下が見える高さにすることでよじ登りによる転落を防止するなど、子どもの安全に配慮。

受賞作品『キッズデザインパーク』概要

『キッズデザインパーク』は、「絆・地縁」「家族の共同作業」「庭のある暮らしの豊かさ」を見つめ直すための新しいタイプのコミュニケーション型住宅展示場です。モデルハウスのほか、①緑の空間となる「フォレストガーデン」、②石や庭の植物を使って行う「ワークショップ」、③誰でも絵本が読める「えほんの森」、④地産の食材を調理する「ガーデンキッチン」などを備え、ただ家を見る人や買う人だけの展示場ではなく、昆虫の観察や庭の植物を使ったワークショップや絵本の読み聞かせプログラムなどを通して、四季の自然や生き物を親子で楽しむことができる、家族や地域社会とのコミュニケーションの大切さを学べる空間です。

例えば、キッズデザインパーク(アイフルホーム湖南店)では、地域とのコミュニケーションをより深めるために、地域自立の資源循環システムを目指すNPO法人の「菜の花プロジェクト」とコラボレーションし、菜の花ワークショップや理科実験、廃食油で走る自動車の試乗会なども実施しています。



《『キッズデザインパーク』500坪タイプイメージ》

特長. 4つのきょういくを育むパーク。教える視点から、育む視点へ。

①自立心を育む《強育》

家+庭。庭を通じて命の深さや重さに触れるなど、地域の未来につなげるための自然教育学習の場として、季節の自然環境と触れ合う「フォレストガーデン」を用意しています。
バタフライガーデンや鳥の巣箱など四季の自然や生物、自然物を活用したワークショップや顕微鏡での生き物の観察ができます。



▲フォレストガーデン

②共生の心を育む《共育》

発見や知る喜び、共に育ち、思い出をつくり、親子・孫・地域の人々の絆を育むコミュニケーション学習の場として、親子で楽しく学べる「ワークショップスペース」を用意しています。
キッズセーフティ教室や思い出づくり工房を体験できます。



▲ワークショップスペース

③感性を育む《興育》

興味を育む夢づくり、家族の思い出づくりなど、将来を担うこども達の感性を高める感性価値学習の場として、親子が気軽に入店できる「えほんの森」を用意しています。
絵本や知育教材で遊んだり、気に入れば購入もできます。



▲えほんの森

④地域愛を育む《郷育》

多様な人々とのつながりや地域コミュニケーションなど、日本や地域の文化を伝える教育学習の場として、ガーデンクッキングを通じて楽しく食育を学べる「ガーデンキッチン」を用意しています。



▲ガーデンキッチン

※この件に関する報道関係者様からのお問合せは下記までお願い致します。

(株)トステム住宅研究所

広報・宣伝室 広報担当 山口まで

電話:03-5626-8251